

回想法のついで・4月号

平成25年 3月31日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

桜前線が動き出しました

桜の思い出

日本人にとって、桜は、100人いれば100通りの思い出があると言えるように、テレビでも「開花はいつ？」と、ニュースになるほど格別の花のようです。桜が満開の4月6日に生れた私は、父が、桜の花を持って陸軍病院に面会にきてくれたと、母から聞かされたことがあります。

メリケン粉に食紅を少し入れた生地を、フライパンで楕円形に焼き、焼いた生地であんこをくりと巻いた桜餅を母が作ってくれました。今のよう簡単に桜餅が手に入る時代ではなかったけれど、春を感じるおやつでした。この桜餅を持って、家の前の学習院女子高校へ母とよく遊びに行きました。糸を通した木綿針りで、花びらの首飾りを作ったり、桜の木下は、母との思い出が沢山積もっています。

震災後、美しい風景は変わってしまいましたが、桜は、春の日差しの中で何事もなかったように咲き誇り、私たちの心を和ませてくれています。

さて、今年のお花見はどちらへ出かけましょうか。般若院の枝垂桜もいいし、愛国学園の見事な桜の木下でのランチもいいですね。少し足を伸ばして筑波の農林省研究所も静かでいいです。桜の花は、心を明るくうきうきさせてくれます。



終わりよければ全てよし

「実直だが、仕事が遅い」と「仕事は遅いが、実直だ」では人の印象も随分と変わるし、いい言葉で締めてもらえば幸せ気分になります。人生も、終わり方次第で不幸にも、幸せにもなりますよね。

認知症になっても、障害者になっても、残された機能を活かして、自分らしく輝いて暮らすことは誰もが望むことですが、それが難しい状況になっているとテレビで報じていました。

特別養護老人ホームの入居を待つお年寄りが52万人を超え、4年前より10万人増えていると。更に「在宅で要介護3以上」は、15万人を越えているようでは、終の棲家にたどり着くことが出来るのだろうか。団塊の世代が75歳をこれる日も間じかに迫ってきています。のんきに構えてもいられなくなってきました。

核家族化、少子化が進み、家族の絆もか細く、地域とのつながりも疎遠になりがちです。税金等は増える一方、年金は減らされるばかりでは、経済的にも精神的にも不安がつるばかりです。一生懸命働いてきた人生も、終幕の環境で明暗を分けるようなことがないように、福祉の充実を、国・行政に願うばかりです。

生きることを支える国・行政と、人と人がつながり合える地域が、孤独死を防ぎ、独居のお年寄りの生きる支えになると思います。「お互い様の精神」を、被災地東北から学びたいものです。

4月の予定

*歴史民俗資料館 *

開催時間は、13時30分～15時30分

開催日 15日(火) 26日(土)は、田起こしの予定

龍ヶ崎市役所 地下食堂

開催時間は、14時～16時

開催日 14日(月)